

令和6年度 基本施策評価シート

作成日	令和6年6月12日
-----	-----------

基 本 施 策	G4	芸術文化あふれる暮らしを創出します	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	市民が		芸術文化を楽しみ、心豊かに生活している。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			206ページ
基本施策主管課名	文化振興課	関 係 課 名	ながさきピース文化祭推進室、学校教育課、生涯学習企画課

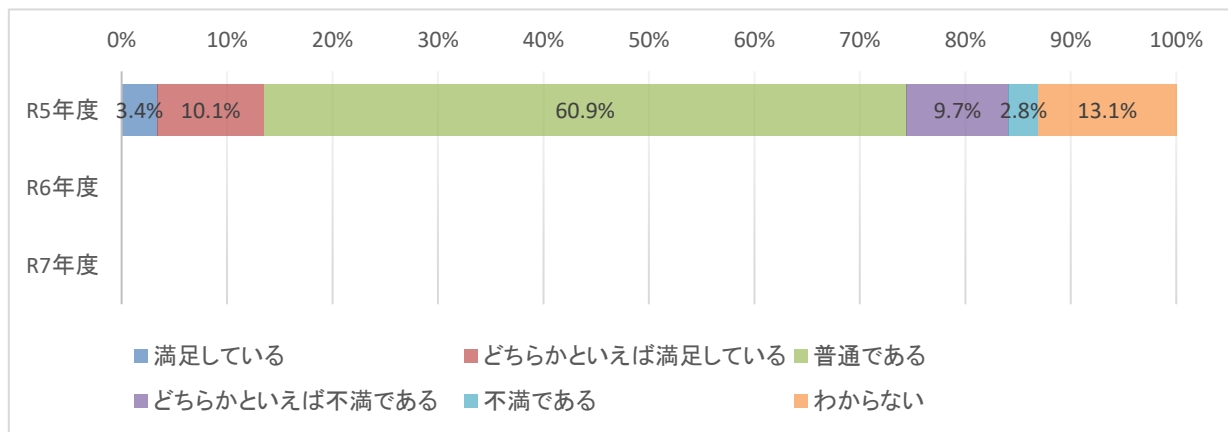
基本施策の総合評価

総括	●基本施策の成果指標である「芸術文化を鑑賞する市民の割合」は49.4%（令和5年度実績）で、令和4年度実績よりも2.1%上昇しているが、2025年度（令和7年度）に目指す姿である55.0%を下回っており、芸術文化に対する興味・関心がある市民が少ないことから、芸術文化に触れる機会や魅力の発信が十分でないことが要因であると考えている。 ●基本施策の成果指標である「芸術文化活動を行う市民の割合」は、19.7%（令和5年度実績）で、令和4年度実績よりも1.5%減少し、2025年度（令和7年度）に目指す姿である20.0%を下回っており、芸術文化活動を楽しむ市民が少ないことや、芸術文化に触れる機会や魅力の発信が十分でないこと、そして担い手の高齢化が要因であると考えられる。 以上のことを踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。
G4-1	●鑑賞型や参加型の事業内容の見直しを図るとともに、芸術文化の魅力を多様な手法で発信し、興味関心を高められるような周知広報活動を行う。 ●芸術性や専門性の高い公演に対応でき、市民が利用しやすい新たな文化施設の整備に向けて引き続き取り組む。
G4-2	●子どもや親子向け事業や若者向けの体験型事業や、芸術文化振興奨励金や芸術文化活動助成金の交付等により、市民や文化団体の自主的な活動の活性化に向けた支援を行う。また、各事業や制度の情報が広く行き届くよう、紙媒体やSNSなど多様な手法で情報発信を行う。

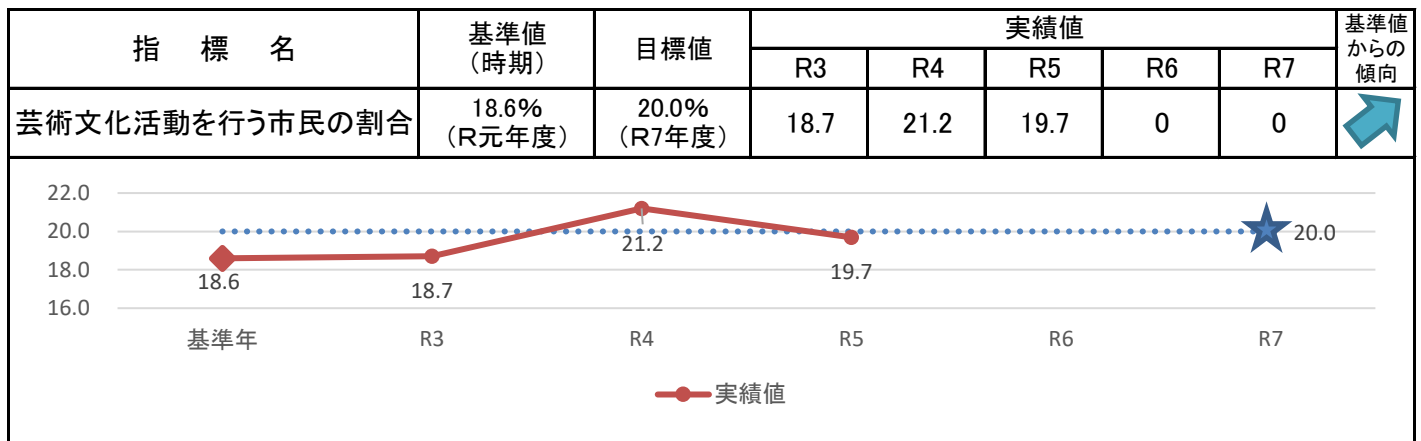
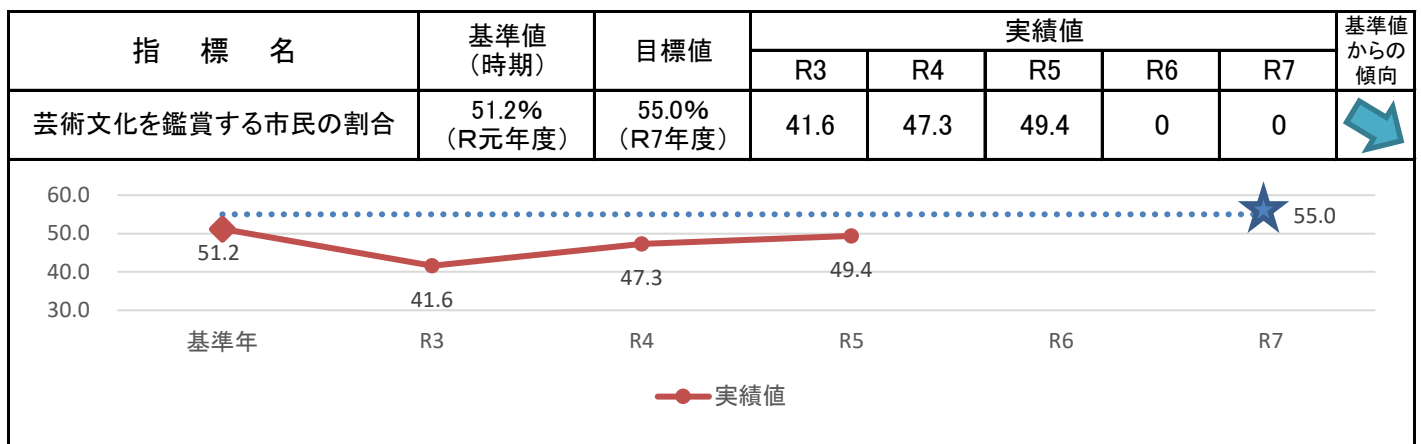
二次評価（施策評価会議による評価）

【基本施策評価シート】	●「基本施策の総合評価」の「総括」には、発信や周知不足などの課題の記載がある一方で、個別施策には「引き続き」との表現があるため、改善に向けて取り組む内容の記載を検討すること。
【G4-1】	●「①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出」及びG4-2「①市民参加・普及啓発型事業の展開」の「成果」について、施策にあった記載へ修正すること。
【G4-2】	●「①市民参加・普及啓発型事業の展開」の「問題点とその要因」に「周知の工夫が十分でなかった。」との記載があるものの、「今後の取組方針」には具体的な対応策が記載されていないので、具体的な記載を検討すること。
【G4-2】	●「②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み」について、市民や文化芸術団体が自主的に行う取組みを支援するようなやり方をより意識して取組みを進めること。
	●ピース文化祭の開催などの新たな要素を「今後の取組方針」に記載すること。
	●G4の施策を推進していくにあたり、費用に対する効果・成果を意識しつつ、市民のニーズに応える取組みを進めること。

基本施策に対する市民満足度調査結果



成果指標



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
・自主文化事業の充実による子どもから大人まで幅広い市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出(実施回数61回、参加・入場者数2,017人)	・自主文化事業の充実による子どもから大人まで幅広い市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出(実施回数65回、参加・入場者数4,197人)		

令和6年度 個別施策評価シート

個 別 施 策	G4-1	芸術文化に触れる機会を創出します	
2025年度に めざす姿	対 象	意 図	
	市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。	
個別施策主管課名	文化振興課		

成果

① 市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

●子どもから大人まで幅広い世代の市民が身近に芸術文化を鑑賞したり、活動に参加したりしてもらうため、学校やふれあいセンター等の身近な場所で、プロの演奏家による質の高い音楽に触れるアウトリーチコンサート（14回）や未就学児から鑑賞できる親子向けコンサートを実施（4回）したほか、「Nagasakiまちなか文化祭」については、3年間中止していたステージイベントを再開させ、コロナ禍前と同じ規模で実施するなど、自主文化事業に4,197人と前年度を上回る参加があり、市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出できた。

●遠藤周作生誕100年記念事業の取組みとして、遠藤周作アーカイブ映像の制作、記念講演会や遠藤周作読書感想文コンクールの開催、広報プロモーションの展開、記念文集の発行などを実施し、遠藤文学の魅力を広く市内外へ伝え、遠藤文学の魅力や遠藤周作の功績に触れる機会を創出するとともに、それらを次世代につなぐきっかけとなった。

② 新たな文化施設の整備に向けた検討

●まちづくりのグランドデザインの議論や様々な関係者の意見、物価高騰といった環境の変化等、多面的な視点を踏まえ再度整理することとし、まず、整備場所について、ホール施設の立地場所として最適であるかという視点及び都心部の回遊性向上に寄与するののかという視点から、長崎市文化振興審議会と長崎都心まちづくり構想検討委員会の合同会議を令和5年10月に開催し、候補地となり得る4か所を示した。その後、令和6年2月に第2回合同会議を開催し、施設側の視点及びまちづくりの視点から候補地の評価について説明し、合同会議においては、市庁舎跡地が最適であるとの結論に至った結果を踏まえ、市庁舎跡地に新たな文化施設を整備することと決定した。

問題点とその要因

① 市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

●「Nagasakiまちなか文化祭」について、ステージイベントを再開させたことで、多くの個人や団体が出演し、盛り上がりを見せ、参加・入場者はコロナ禍前に戻りつつあるが、目標を達成できず、事業内容の工夫や市民に対する周知広報が十分でなかった。

●遠藤周作生誕100年記念事業については、広報プロモーションにも力を入れながら各事業を実施し、入館者数は前年度より増加したものの、目標値に届かなかった。入館者数見通しにおいて状況分析に不足があったと思われる。

② 新たな文化施設の整備に向けた検討

●新たな文化施設の整備に向けた取組みを進めることができたが、長崎市公会堂の廃止後、長崎ブリックホールの稼働率の高く、市民文化団体が発表するための予約が取りにくいなどの状況が続いている。

今後の取組方針

① 市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出

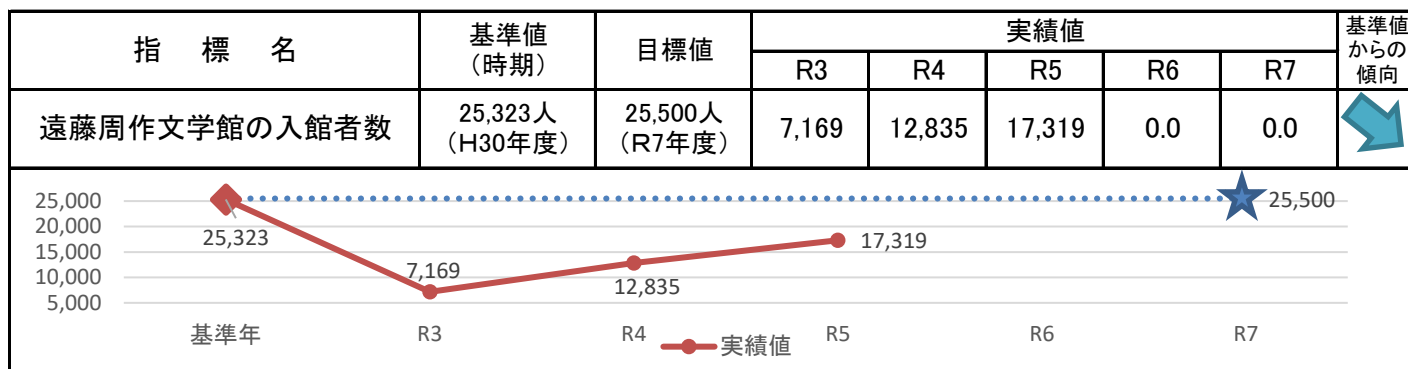
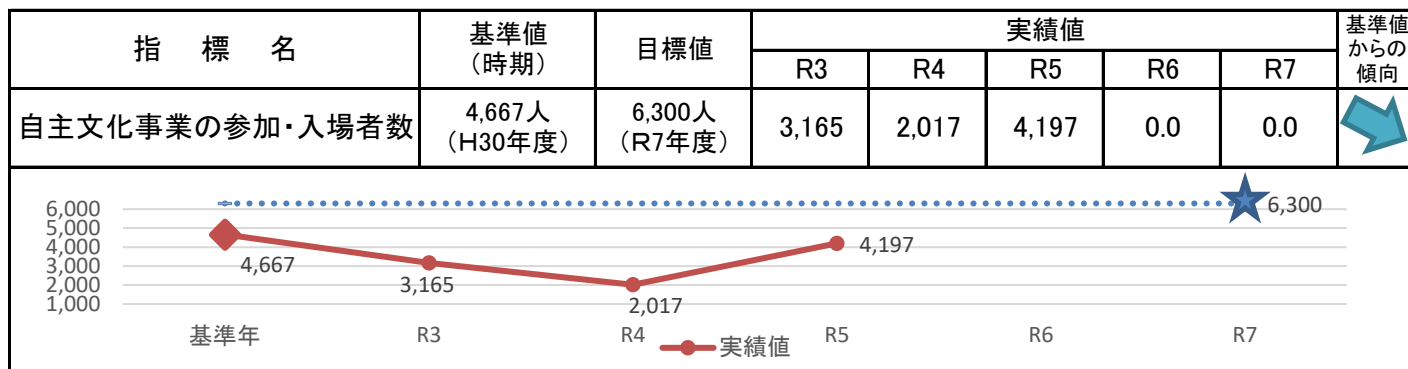
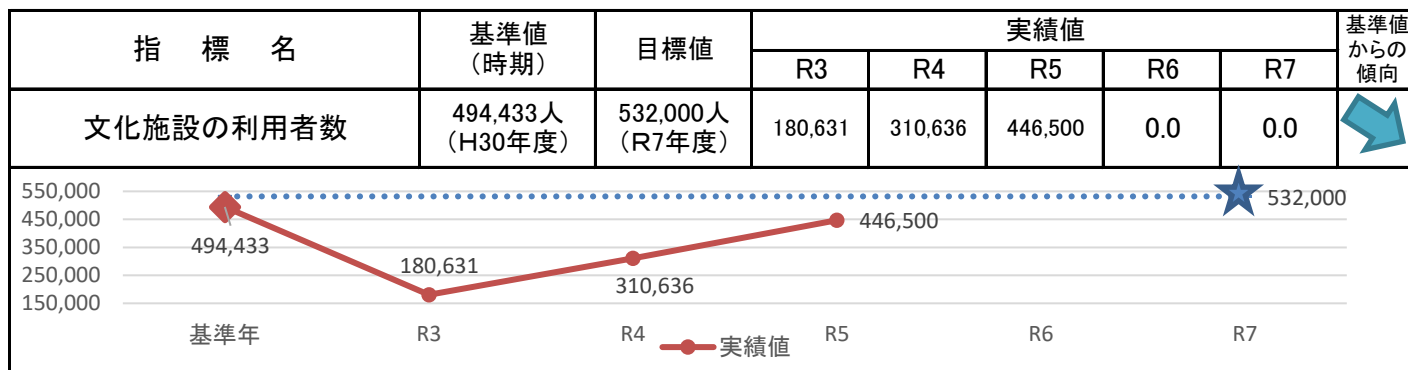
継続 ●自主文化事業について、多くの市民が芸術文化を生で体感し、興味関心を高められるよう、事業内容の見直しや、関係団体とも連携しながら積極的な周知広報を行う。また、未就学児を含む子どもや親子を対象とした事業は、多くの参加があり好評であることから、より効果が高められる事業内容となるよう検討する。
また、令和7年度に「第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭」が長崎で開催されることから、自主事業においても文化祭を盛り上げる事業内容を企画・実施する。

継続 ●遠藤周作の人物像や文学と生涯を紹介するアーカイブ映像を修学旅行の事前学習に活用するなど、遠藤周作生誕100年記念事業の成果を活かし、今後も遠藤文学の魅力を市内外に発信するとともに、次世代につなぐ取組みに力を入れる。

② 新たな文化施設の整備に向けた検討

継続 ●市庁舎跡地の整備については、これまでの検討に加え、地域活性化への効果や市の財政負担軽減の観点から、文化施設としての機能に限定することなく、それ以外の機能をも付加した形での利用も視野に入れて、PPP/PFI等の官民連携の手法や仕組みにより民間活力を導入することも含め、改めて検討することとしており、その検討にあたって民間事業者と対話しつつ意見や提案を把握するサウンディング型市場調査を行う。

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	音楽の魅力発信事業費		文化振興課	
	成果指標	参加・入場者数			
	目標値	3,200人			
	実績値	1,967人			
	達成率	61.5%			
	成果指標・ 目標値の説明	市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。 過去の実績等より来場見込み数を想定し、令和5年度は3,200人を目標値とした。			
	事業目的	市民生活に音楽芸術を広く浸透させるとともに、次世代の文化活動を担う人材の育成を図る。			
	事業概要	中央および地元で活躍する演奏家を、学校・保育園・公民館等へ派遣して行うアウトリーチコンサートや、アウトリーチコンサートに出演した演奏家が一堂に会するコンサート等を開催することにより、市民が身近な場所で気軽に音楽を楽しめる機会を創出する。また、地元演奏家が活動できる場を設け、演奏家のスキルアップを図る。			
取組実績	・アウトリーチコンサート 市内各所 計14回 参加者531人 ・ガラコンサート 1回 参加者278人 ・ラウンジコンサート 全9回 1,157人				
	決算(見込)額		4,210,852	円	

2

事業名 担当課	Nagasakiまちなか文化祭開催費		文化振興課	
成果指標	参加者数		 【パフォーマンスステージ】	
目標値	1,400人			
実績値	956人			
達成率	68.3%			
成果指標・ 目標値の説明	市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。 過去の実績等より来場見込み数を想定し、令和5年度は1,400人を目標値とした。			
事業目的	芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場を創出するとともに、市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を創出するとともに、「まちなか」の賑わいにもつなげる。			
事業概要	「Nagasakiまちなか文化祭」と称し、出演者を公募し、書類審査に加え楽曲・映像審査などによる選考後、音楽・舞踊・演劇の各ジャンルの市民ステージ及び参加型の美術イベントを開催する。			
取組実績	・音楽ステージ 11組出演 ・パフォーマンスステージ 11組出演 ・まちなか劇場 延べ24人出演 ・まちなか美術館 版画体験の実施			
	決算(見込)額		2,527,686	円

3	事業名 担当課	長崎文化時間の創出事業費		文化振興課	
	成果指標	催事の参加者数			 【親子向け演劇公演「観る童話」】
	目標値	565人			
	実績値	693人			
	達成率	122.7%			
	成果指標・ 目標値の説明	市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出することで芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。 関係者と協議したうえで、令和5年度の目標値を565人とした。			
	事業目的	新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術文化に触れる機会が多く失われたことから、特に次世代の芸術文化の担い手となる子どもたち様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化を楽しみ、心豊かな生活を取り戻すきっかけをつくる。			
	事業概要	親子向けコンサート及び演劇公演を開催する。			
取組実績	親子向けコンサート 4回 179人 親子向け演劇公演 8回 514人				
	決算(見込)額		9,986,077	円	

4	事業名 担当課	遠藤周作生誕100年記念事業費		文化振興課	
	成果指標	遠藤周作文学館の入館者数			
	目標値	25,500人			
	実績値	17,319人			
	達成率	67.9%			
	成果指標・ 目標値の説明	入館者が増えることで、芸術文化に触れる人が増えてい ると考えられるため、遠藤周作文学館の年間入館者数を 成果指標とした。 新型コロナウイルス感染症の拡大前である平成30年度 の入館者数(25,323人)を基に目標値とした。			
	事業目的	遠藤周作が生誕して100年を迎えることから、この貴重な唯一の機会を活かして遠藤文学の魅 力を広く市内外へ伝え、その功績を称えとともに、それらを次世代につなぐ。			
事業概要	「出会う」「堪能する」「次世代へつなぐ」の3つの柱のもと、アーカイブ映像の制作や読書感想文 コンクールの開催等を行うとともに、広報プロモーションとして公式SNS等での遠藤文学の魅力 発信を行う。				
取組実績	・遠藤周作アーカイブ映像制作 YouTube掲載(遠藤周作の人物像、文学館プロモーション映 像) ・遠藤周作生誕100年記念講演会 R5.9.16長崎ブリックホールで開催、来場者約660人 ・生誕100年記念遠藤周作読書感想文コンクール 応募総数70点、入賞者8人 ・遠藤周作生誕100年記念事業広報プロモーション インスタグラム投稿176回、X投稿161回 ・遠藤周作生誕100 年記念文集「遠藤周作とのめぐりあい」発行 販売数714部(R6.3.31時点)				
	決算(見込)額	25,638,364			円
5	事業名 担当課	文化振興推進活動費(新文化施設整備)		文化振興課	
	成果指標	芸術文化を鑑賞する市民の割合			
	目標値	55.0%			
	実績値	49.4%			
	達成率	89.8%			
	成果指標・ 目標値の説明	新たな文化施設の整備は市民が芸術文化に触れる機会の創出に繋がるため、芸術文化を鑑 賞する市民の割合を成果指標とした。なお、施設の完成時期が未定であることから、目標値は R7年度の数値を記入しており、今後見直しを行う。			
	事業目的	「芸術文化と平和を世界と共有する」というめざす姿、芸術文化あふれる豊かな暮らしを実現す る。			
事業概要	芸術性や専門性の高い公演に対応でき、市民が利用しやすい新たな文化施設を整備する。				
取組実績	・新たな文化施設の整備に向けた文化振興審議会の開催				
	決算(見込)額	507,540			円

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-2	市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	市民が		自主的な芸術文化活動を活発に行っている。
個別施策主管課名	文化振興課		

成果

① 市民参加・普及啓発型事業の展開

●芸術文化活動を新たに始めたり再開する人を増やすため、アーティストが学校に出向いて演劇体験を実施する演劇アウトリーチ(14回)や様々な年代を対象にした演劇、ダンス体験教室(5回)、こども伝統文化体験教室(茶道2回、いけばな2回、箏6回)のほか、若者を対象とした茶道体験(3回)では、最終日に音楽鑑賞会も併せて実施するなど、実際に芸術文化を体験する機会を創出したことで、市民の芸術文化活動に対する興味・関心を高めた。また、若者向けを対象とした事業においては、若者が興味を持ちそうな内容及びデザインの周知用ポストカードを作成し配布するとともに、SNS等で周知したことで、参加者数増加につながった。

② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

●将来にわたり、芸術文化活動を続ける市民を増やすため、部活動以外で芸術分野の全国大会等に出場した小中学生及び高校生に対して交付する芸術文化振興奨励金について、教育委員会と連携し、小中学校へ周知を行ったことで、前年度を大きく上回る奨励金の交付(101件)につながり、子どもの芸術文化活動を応援し、さらなる活動意欲を高めるとともに、保護者の経済的負担の軽減が図られた。

●芸術文化専用ホームページ「ながさき文化のひろば」において、各種助成金の募集情報や利用登録団体のイベント情報などを発信し、自主的な芸術文化活動の振興を図った。

問題点とその要因

① 市民参加・普及啓発型事業の展開

●子ども向け事業について参加申し込みが少なかった事業や、長崎市が市民文化団体等と共催する事業について、参加・入場者数減少傾向にある事業もあることから、集客につながるような効果的な周知の工夫が十分でなかった。

② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

●芸術文化振興奨励金の申請件数は、大きく増加したが、想定件数には達しておらず、依然、制度の周知が十分でないことが要因であると考えられる。

●ホームページの市民交流掲示板機能について、利用登録団体の増加及び活用促進を図るため、周知に努めたが、新たな利用登録団体は8件と少なく、掲示板機能の活用を促すような周知が不足していたことが要因であると考えられる。

今後の取組方針

① 市民参加・普及啓発型事業の展開

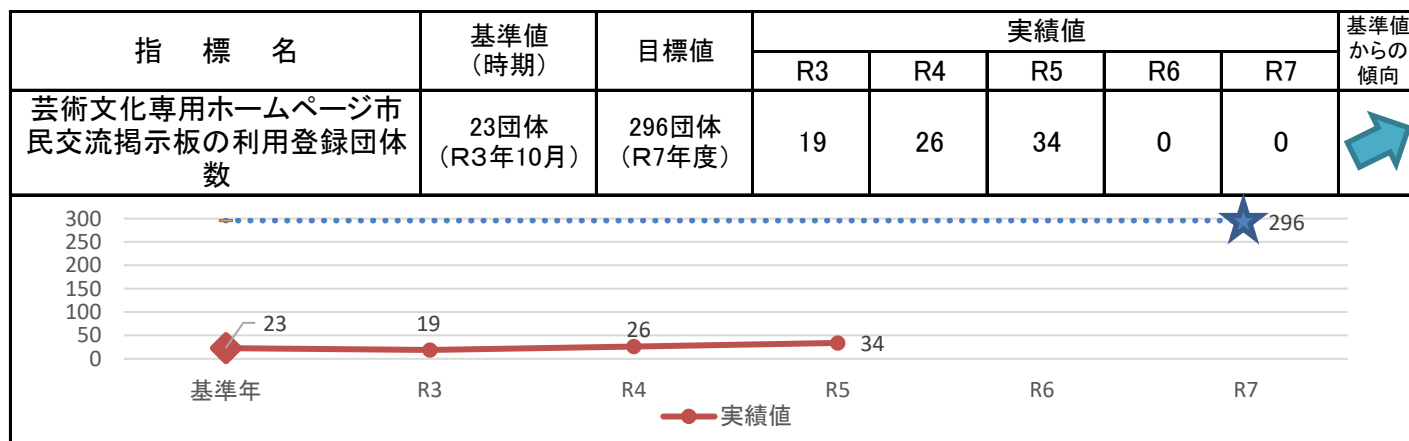
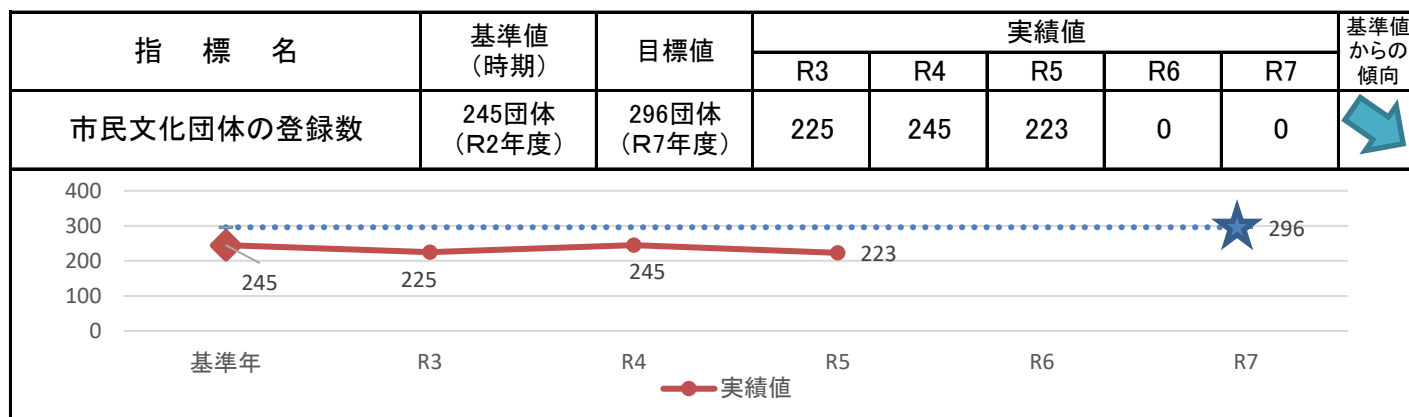
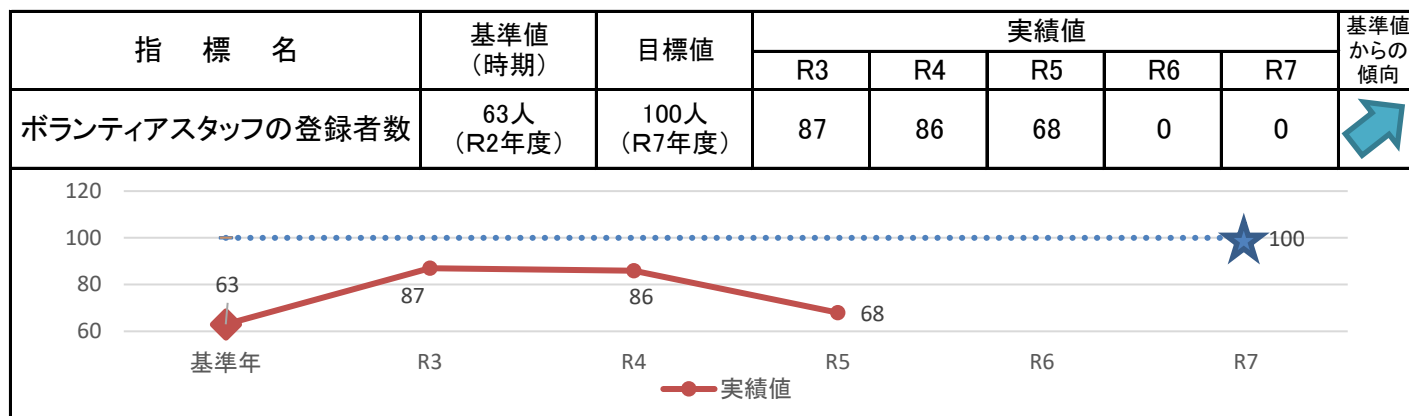
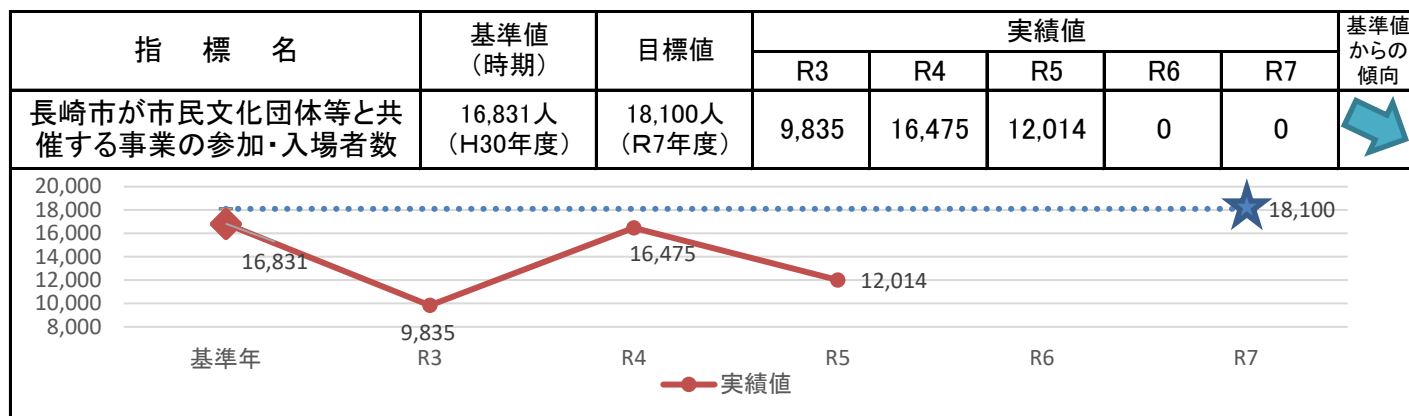
継続 ●子どもや若者が興味関心を持つ事業を実施するとともに、広報期間の十分な確保や情報が目に留まるよう印象的なチラシ等を制作し広く情報が行き届くよう、紙媒体やSNSなど多様な手法で情報発信を行い、参加者数を増やす。

② 市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

継続 ●芸術文化振興奨励金について、引き続き教育委員会と連携し、効果的・効率的な方法での周知を行う。

継続 ●ホームページの市民交流掲示板機能について、様々な機会を捉えて周知し、活用の促進を図る。

成 果 指 標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	市民参加型舞台公演等開催費		文化振興課	
	成果指標	催事の参加者数			
	目標値	570人			
	実績値	387人			
	達成率	67.9%			
	成果指標・ 目標値の説明	市民と一緒に舞台作品の制作や公演を行ったり、様々なワークショップを開催したりすることで、気軽に舞台芸術に触れる機会を創出することにつながることから、参加者数を成果指標とし、関係者と協議したうえで、令和5年度の目標値を570人とした。			
	事業目的	市民に演劇の台本制作や舞台公演に参加する機会を提供し、舞台芸術に係る人材育成と活動の活性化を図る。			
事業概要	公募で集まった市民と一緒に舞台作品を作り、公演するとともに、様々なワークショップを開催し、市民が気軽に舞台芸術に触れる機会を創出する。また、長崎では鑑賞する機会が少ない著名な劇作家・演出家が手掛ける質の高い舞台芸術作品を招聘し、新たな観客の獲得につなげる。				
取組実績	令和5年度演劇アウトリーチ 開催回数14回、参加者数303人 令和5年度ダンスワークショップ 開催回数5回(ヒップホップ3回、親子1回、フィーリングアート1回)、参加者数69人(ヒップホップ46人、親子18人、フィーリングアート5人) 令和5年度こども演劇体験教室 開催回数7日、参加者数15人				
	決算(見込)額			2,620,969	円

2

事業名 担当課	芸術文化体験教室開催費		文化振興課	
成果指標	催事の参加者数		 【若者向け芸術文化体験教室】	
目標値	180人			
実績値	195人			
達成率	108.3%			
成果指標・ 目標値の説明	子どもから若い世代の方にも芸術文化を体験できる機会を創出することで、芸術文化活動に対する興味・関心を高めることにつながることから、参加者数を成果指標とした。関係者と各催事の参加者上限を協議したうえで、令和5年度目標値を180人とした。			
事業目的	子どもや若い世代から大人まで、気軽に伝統文化や芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高める。			
事業概要	様々なジャンルの芸術文化に楽しみながら触れる機会を創出するため、子ども向けから大人向けまで多様な体験教室を開催する。			
取組実績	こども伝統文化体験教室 茶道体験:2回 参加者数39人、いけばな:2回 参加者数38人、箏体験:6回 参加者数延49人 豆本制作体験 開催回数2回 参加者数30人 若者向け芸術文化体験教室 開催回数3回 参加者数39人			
	決算(見込)額		1,450,937	円

3	事業名 担当課	マダムバタフライフェスティバル開催費負担金		文化振興課	
	成果指標	催事の参加者数			
	目標値	1,920人			
	実績値	1,841人			
	達成率	95.9%			
	成果指標・ 目標値の説明	市民が気軽に音楽に親しんだり、質の高い音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化活動に対する興味・関心を高めることにつながることから、参加者数を成果指標とした。 関係者と協議したうえで、令和5年度目標値を1,920人とした。			
	事業目的	子どもから大人まで音楽や楽器に親しめるイベントを実施し、市民が気軽に音楽に親しんだり、質の高い音楽に触れる機会を創出する。			
	事業概要	長崎が物語の舞台となっている世界的に有名なオペラ「蝶々夫人(マダム・バタフライ)」をテーマとした音楽フェスティバルとして、オペラ・クラシックコンサートやミニコンサート、楽器の体験教室等を実施する。さらには保育園や放課後児童クラブなどを対象としたアウトリーチを実施する。			
取組実績	たのシクフェスティバル(2日間) 入場者数:1,264人 プッチーニおじさんの音楽物語 入場者数:398人 アウトリーチコンサート(3回) 参加者数:179人				
	決算(見込)額		4,500,000 円		